

雪まるかじりツアー

～とことん！雪合戦！！コース～

1月4日（月） ～ 1月6日（水）

IN 兵庫県立兔野高原教育センター

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	レクリエーション 基地づくり	屋内雪合戦、作戦会議
2日目	とことん！雪合戦①	とことん！雪合戦②	キャンドルファイア
3日目	プログラム体験会 片付け	施設を出発・解散	

一日目： 今年はずっと雪がない中で雪合戦を行います。こういった形で行うのか、行きの中で話題が上がっていました。施設に到着し、昼食を済ませた後、早速活動場所へと向かいました。グループ内でコミュニケーションが取れる環境を作るためにレクリエーションを行いました。ゲームを通してグループメンバーの名前、顔、声、動き、特徴など沢山知ってもらいました。初めは不慣れな感じでしたが、徐々に打ち解け始め、二つ目のゲームの時には自然と仲間を応援する声が聞こえました。ゲームの後は、雪合戦をするためのフィールド作成を行いました。雪がないので走り回れる事を活かして、いつもの「公式ルール」ではなく、陣地を決め、防壁（シェルター）を作り、攻めていく形で執り行います。そのルールを説明し、各グループ場所決めから始めました。他のグループがどこに決めるか伺いながら、陣地を決めると、そこを守るためのシェルター、そこから攻める為のシェルターを施設に落ちている様々な自然のものを使って作成しました。夕食後は、体育館で実際に雪合戦を体験してもらい、イメージを持っていただきました。やってみると意外に難しく、相手に当てる事が出来ない、攻めに行けない、気を抜くと当てられるなど、様々な発見があったようです。雪合戦後に、明日の「合戦」について話し合ってもらいました。陣地はあそこがいいのか、他のグループから攻められると防ぐ事は出来るか、相手陣地に攻め込むにはどうすればいいか、ひたすら話し合っておられました。



二日目： 朝食を食べ終わったグループから準備に向かい、陣地の引越し、シェルターの移動など合戦に向けて準備を行いました。地形や周りの障害物を確認し、それらを有効活用できるように工夫をされていました。合戦が始まるとみんなのテンションは最高潮に！初めはコーンを取るよりも相手にボールを当てる事に意識がありました。メンバーに雪合戦は『考える→動く→話し合う』の繰り返しである事をヒントとして伝えているので、そこにいち早く気付いたグループは徐々に動きが変わってきました。やられても、すぐに復活はせず、しっかり話し合い、そのタイミングもはかっていた様子が見られました。昼食を挟み午後からは「アイテム」の使用が増えました。それにより新しい戦術が生まれ、午前とは違う試合運びとなりました。時間が経過するにつれ、



メンバーの気持ちもヒートアップし、時々ラフプレイが見られました。相手に対して敬意を払わない行為や言葉、気持ちが浮いている様子などが見られたので、一度話し合う時間を設けました。誰もが我にかえるように、自身の行いを振り返り、反省されていました。その結果、午後の後半のみんなの動きから相手を想う様子が伺えました。試合を終え、部屋に戻り今日一日の振り返りをしました。雪合戦を通して感じたこと、気付いたこと、学んだことをみんなで話し合う事で、みんなの中に雪合戦で得たものを取り込んでもらいました。夕食後は、雪合戦から離れて「キャンドルファイア」を行いました。雪合戦とは違う楽しさに大いに盛り上がりました。



三日目： 朝から片付けの声や音が鳴り、一日が始まりました。朝食後も部屋や共有スペースの清掃を行いました。掃除が完了すると、かまぐら完成を拝見しに行きました。各グループが作ったかまぐらを紹介してもらいました。戦い続けた雪合戦とは違い、作り続けた作品を見ながら感心されていました。かまぐらメンバーも自分達が作った作品を一生懸命紹介されていました。その後は、かまぐらメンバーに雪合戦の楽しさを紹介しました。実際にやってもらい、一緒に楽しみました。細かいルールの確認や注意事項などを伝え、試合スタートです。初めてするかまぐらメンバーにコツを教えている様子が見られました。中にはあっという間に仲良くなり、声を出し合って戦っている方もおられました。お互いのお披露目会が終わると、シェルターの解体を始めました。一生懸命作ったシェルターに少し名残惜しそうにされていましたが、協力して、もとの状態に戻しました。昼食をはさみ、とうとう施設を出発です。楽しかった時間もあっという間でしたが、施設に来た時と帰る時とのみんなの表情は大きく違い、とても晴れやかでした。



<キャンプ総括>

雪合戦において、メンバーに大事な事は『考える→動く→話し合う』と伝えました。雪合戦はただ投げて当てるといった単純なスポーツではありません。個人の力とグループの力が合わず事で勝利を手に入れます。この事を、体験を通して感じていただけたと思います。雪合戦において、初めは個人プレイが目立ち、当たりたくない一心で行なっていたので、すぐにコーンを取られたり、全滅したりされていました。時間と共に声かけや協力する姿が増え、自分の為ではなく“グループの為に”という気持ちが芽生えてきたので、勝率が上がり、負けてもあまり悔しさを見せず、すぐに話し合い、次の試合へ活かそうとされていました。『勝ち』を自分だけではなく、仲間と共有し、“感謝”を伝える様子が伺えました。どのようなスポーツや遊び、普段の私生活においても“感謝”の気持ちを忘れずに、個人の力と周りの力を掛け合わせて自己成長へと繋げて頂きたいです。 (竹中 哲郎)